

平成 27 年度 記者懇談会（第 6 回）の記録

日 時 平成 27 年 9 月 28 日（月）午後 3 時 30 分

場 所 水道庁舎 4 階 会議室

記者数 8 人

同席者 阿部副市長、天野副市長、総務部長、教育部長

次 第 1 教育委員会事務局等の移転について

2 その他について

1 教育委員会事務局等の移転について

説明内容

（市長）

それでは、よろしく申し上げます。教育委員会事務局等の移転についての説明でございます。

岩見沢市では来年の 4 月までに、であえーる岩見沢 3 階を子ども子育て支援の拠点「えみふる」として、あそびの広場の整備や関連施設を集約することとしております。

この度、「えみふる」の工事が 10 月から開始されますので、現在 3 階にあります教育委員会事務局、教育支援センター、岩見沢育英会が 10 月 5 日（月）から 4 階へ移転することとなりました。

同じく 3 階にあります幼児ことばの教室、子育て支援センター、常設型子育て親子広場「ひなたっこ」が地下 1 階へ、また、岩見沢市地域包括支援センターが 4 階へ一時的に仮移転することとしております。

平成 28 年、来年 2 月の 3 階部分の工事終了後、地下 1 階へ仮移転しておりました、幼児ことばの教室、子育て支援センター、「ひなたっこ」のこの 3 施設が 3 階の方に戻ります。さらに保健センターが同じく 3 階に移転し、母子保健機能も付加することで、子どもたちが喜び、親子で楽しめる魅力的な拠点としてスタートする予定でございます。

なお地域包括支援センターについては、現在北海道銀行が仮に入居しております第 2 ポルタビルの 1 階に、平成 28 年の秋を目途に移転する予定となっております。簡単ですが以上です。

質疑応答

（北海道新聞）

あそびの広場の関係で、有料化を打ち出されておまして、先日の議会でもいろいろ質問が出ていたのですけれども、子どもから 100 円を徴収するのはどうかとの意見も結構出まして、確かその負担金には受益者負担というお話もされていたと思うのですが、街の中に来てもらう公園のようなイメージがあると思うんですよね。その公園に対して子どもから 100 円とはいえ、何回も来てもらう施設にするにはどうなのかなと個人的に思うのですが。あと、市議会の答弁では年間 5 万人利用者を見込んでいるとのお話がありましたが、その数字は現実的なものなのかなという疑問があり、将来

的に使っていただかないと全く意味のないものになってしまいますので、そのところをあらためてお聞きしたいと思います。

(市長)

まず、あそびの広場の使用料の 100 円の件なのですが、従来から教育委員会等々で相談業務等をやっておりますけれども、その時の利用者の方々に対し 4 時間駐車料金を無料にしています。1 時間 270 円駐車料金がかかるのですが、あそびの広場を利用される方については駐車料金を 4 時間無料になります。あそびの広場利用と併せて相談業務ですとか、さらには母子保健の機能も付け加えられますので、そういったことをご利用いただく駐車料金の負担については教育委員会の相談業務と併せて無料というようにしています。それから 100 円についてはいろいろと議論があったのは事実です。全国的にも類似施設等々の考え方をいろいろ整理させていただいたのですが、負担が大きくない範囲での受益者の負担というか、むしろいただいた費用を施設の維持あるいは安全管理に少しでも足しこんでいきたいというふうに考えています。ですから 100 円をご負担いただいてその施設の魅力を高めるような使い方をぜひ心がけてやっていきたいと考えています。確かに無料と比べると負担が大きいのは事実ではあるのですが、それに見合うだけのサービスを提供したいというふうに考えています。公園についてもいろいろ議論があると思います。有料でやっている公園もあるのは事実ですので、そういった観点で負担の大きくなる範囲ということで協議をまとめさせていただいたということになります。

それから、確か 5 万人というところはその通りでご説明させていただいているはずですが、1 回の利用は 100 人ですね。2 時間単位で 1 日 3 回の利用を考えているので、1 回の利用を 100 人と想定して年間 330 日で年間約 5 万 3 千人を想定しています。

(教育部長)

詳細を申し上げますと、平日は 140 人の利用を考えています。土日祝祭日で 220 人、大人の日で 60 人を想定しております。1 年間で平日は何日あるのかというと 182 日、土日休日 115 日、大人の日が 39 日です。今言いましたように平日 140 人掛ける 182 日、土日休日 220 人掛ける 115 日などを積み上げていくと大体年間で 53,000 人の利用者になります。

(市長)

1 回 100 名というのは、安全管理の面で最大限 100 名を限界としているということです。

(北海道新聞)

この数字は妥当だと考えていいのですね。他の類似施設と比較をされましたか。

(市長)

比較をいたしました。一応目標値ですが、

(プレス空知)

スペースは今の倍以上になると思うのですが、今使っていらっしゃる子どもたちが新しくなったときに、未就学の子は費用がかからないのですが、例えば幼稚園に行っている子どもでもお母さんが来れば 100 円がかかりますよというところで、設定しているというところからお母さん方が遊びたいと行ってもお金がかかるから帰ろうというように、利用が伸び悩んでしまうということは想定されませんか。

(市長)

いろんな想定はあるのですけれども、そこで負担の程度としてどの金額がいいのか、平日はスタッフ 5 名くらいを用意して安全管理で休日等々については 8 名体制で安全管理体制をとっているということもあるのですけれども、是非ご利用いただいてリピーターになっていただきたいということが願いでございまして、100 円等々については駐車場の料金が 4 時間無料というように考えていますので、買い物や教育委員会の相談と併せてご利用いただければなと考えているところです。

(プレス空知)

今お話しのあったスタッフなののですけれども、平日・休日ともにそこまで必要な施設がたくさんあるのでしょうか。

(市長)

施設的には今の施設とは規模的に比べものにならないような内容になってくると思います。クライミングウォールも 6 メートルの壁となりますし、面積的には 3 倍くらいになるはずですが、体を動かして遊ぶスペースと本を読んだりする静かに遊ぶスペースもありますので、面積が広がった分と子どもたちの興味と感心を満たすといった部分があり、ロゴも「えみふる」としたのは、笑顔があふれるようにといった願いと美味しいものを食べてほっぺたが膨らんでいるという願いを込めており、安全管理には十分徹底をしたいというようなことでその体制を検討しているということになります。

(HBC)

今、「であえーる」の改修工事をやっていると思うのですが、屋上の看板はどういったものなのでしょうか。

(市長)

その看板が、あそびの広場の「えみふる」という看板です。愛称を公募しまして、確か 145 点の応募があった中で、庁内 5 人の庁外 1 名だったかな、選考委員会でキャッチフレーズというか愛称を選定して今度それを専門家の方にデザイン化してもらいました。先ほど触れましたけれども、「えみふる」というのは子どもたちが遊んで笑顔いっぱい遊んでいただける様子ですとか、岩見沢のおいしい食べ物を食べて笑顔になっている様子ですとか、笑顔がフルと、それで「えみふる」なんです。その看板を PR も兼ねて早めに、9 月下旬に出来上がって設置をしたところです。今、足場が囲われているのですが、そこに来年 3 月オープンという掲示ができるようにしようと思っております。ちょっと早いのですが PR のためです。

(プレス空知)

あそびの広場の条例の中で、小学生の団体利用に関しては減免ということで、平日利用に限ると書いてあったのですが、平日利用で小学生が団体で利用するとすると、授業の一環で使用することを想定されているのか、それとももっと別なカタチでのものを想定しているのかイメージがうかばなかったので教えてください。

(市長)

時間帯が午前中 1 回、午後から 2 回クールくらいになるのですが、クールによって学校が終わってから団体利用ということも考えられますし、夏休み、冬休み、春休み期間中の団体利用ということも考えられるので、団体利用の場合については無料となります。

2 その他について（記者からの質問）

質疑応答

(北海道新聞)

松野市長の一期目が 9 月でまる 3 年ということ、来年 9 月までの任期が 1 年だということ、残り 1 年をどのように市政を行っていくのか、意気込みや課題、重点的に考えている施策があれば教えていただきたいと思えます。

(市長)

土台作りを中心に基本から始めていって 3 年目がもう早くも過ぎてしまったというのが実感です。その中で来年度からは、今日の記者懇の話題にも触れましたけれども、子どものあそび場ができるというように新たな取り組みとしていくつかがカタチになっていくのではないかなと。市政の方向性としては、人口減少という言葉よりも地方創生ということで岩見沢の創生、岩見沢の創生の観点をどのように考えていくのか、と自分では思っているのですけれども、その時に自立と活性化というのが大きなキーワードで、どちらかというといノベーションあるいはイノベーションというかそういった考え方を見えるようにしていきたいなと思っています。それから事業で重点化するもの等々については、わかりやすいカタチでお出ししていくということが基本になるのかなというように考えております。

(プレス空知)

岩見沢版の総合戦略が秋くらいというお話だったのですけれども、いつ頃出来上がるのかお聞かせください。

(市長)

9 月の議会でもちょっとお答えしたのですが、当初は 10 月くらいを目途に作り上げたいということでいろいろと作業していたのですが、北海道の総合戦略等々の整合性を図る必要があるという認識と具体的な事業をきちとしたカタチで盛り込みたいということで、遅くとも年度内というように議会ではお答えしたのですよね。その際、一定程度の方向性についての議論は進んできているのですが、市民の皆さまにできるだけ早くそういった素案をお示しして、固める作業にこれ以降入っていききたいなと思っています。長期ビジョンそれから総合戦略、特に長期ビジ

ョンをどういう人口ターゲットにするのかというところをはっきり固めた上で、今度は総合戦略で具体的な重点を打ち出していくというようになろうかなと思っております。

(プレス空知)

岩見沢版の総合戦略の中で個人的な思いも含めて一つ挙げるとすれば何かありますか。

(市長)

27年度予算というのはある意味総合戦略を強く意識した内容で事業を構築したというベースはあるので、そこから更に伸ばすもの、重点化していくものというのが基本になるのかなと。ただ新たな視点で取り組むこともかなり今検討を進めていますので、今まで人口等の動向を調査してみると、自然減をどのようにしてカバーしていくのか、社会減に対し、どこをターゲットにしていつまでにどの程度抑え込んでいくのか、そのために何を具体的にやっていくのか、一つの方向性としては、子育てとか子育て支援とか、そういった意味ではあそびの広場というのは先行的に事業を進めてきた中身の一つであるというように思っています。付随してこれからは、医療ですとか介護ですとかは最低限必要な都市機能になりますから、その充実を具体的にどう図っていくのか、健康づくりを産学官の中でどのように構築していくのか、そういった分野がいろいろと出てくるのかと思います。当然地域経済の活性化というのもそうですけれども、国も岩見沢も、まち・ひと・仕事なのですけれども考え方としては仕事・ひと・まちということですね、雇用を増やすことで人が増える、「ひと」が増えることによって「まち」がという循環をかなり意識した中身になるのだろうなと思っております。自分の認識としては、道内もそうですし、全国の自治体がそういったかたちで競い合っていて総合戦略を策定しているわけですので、全ての自治体がうまくいったら今と何もかわらないということなので、うまくいくところとうまくいかないところもあると思うんですよね。ですから岩見沢はうまくいかないところではなくてうまくいくところとして勝負したいということです。

(北海道新聞)

就任されてからここ3年が終わったということで、市長が当初描いていた自分のやりたいこと、自分の考え方がどのくらいまで出来たというか、まだ総括はまだ早いと思うのですけれどもお聞きします。

(市長)

ちょっと早いですがけれども、点数をつけろと言ったらそれは難しい話ですし、それは市民の方がどう判断されるのかなんですけれども、ステップバイステップでいくと、進捗としては6割から7割の間くらいかなと思ってはいますけれども。

(北海道新聞)

毛陽のリンゴは4年くらい前に雪害によりだいぶ影響があっって、今はだいぶ持ち直したようですが、まだ元には戻っていないと聞いたのですが、現状としてお聞きになっている部分がありましたらお願いします。

(市長)

苗木を育てるといふ部分では市は独自助成を継続してやっております、当初は3年くらいで回復するだろうと言っていたのが、去年の段階でまだ回復に至っていないということで更に継続して支援をしているということで、収量的には去年より出来は良いと聞いておりますけれども、具体的にどの程度までということは聞いておりません。少なくとも豪雪時以前の状況には至っていないということです。来年で回復するかといたら、もう少し時間がかかるような状況かと思っております。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：岩見沢市秘書課広報係)